

令和5年度 学校評価(12月) 成果と課題

保:保護者アンケート(網掛けは市内共通項目)、児:児童アンケート

学校経営理念	Well-being な学校づくり ～子どもが通いたい学校、保護者・地域が通わせたい学校、教職員が働きたい学校～					
学校教育目標	主体性を育てる ～自主・自律・共生					
目指す子ども像	「させられないで、する子ども」 ◎自分の願いや目標を持ち、自分で考え、判断、行動し、多様な人々と協働しながら、自らの可能性を発揮していく児童の育成					
推進方法	～ 生徒指導の3つの機能・4つの重点目標・12のアクションを通して ～ ◎生徒指導の機能 (1)存在感 (2)自己決定 (3)共感的人間関係					
確かな学力	重点1	■主体的な学び:「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を図る。				
	アクション	①言語活動(読む、書く、話す、聞く)の充実 ②ICT(タブレット)活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実 ③ユニバーサルデザインの視点(構造化、視覚化、焦点化)を生かしたわかる授業づくり				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>根拠となる指標</th> <th>データ分析</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査(6年生) ・標準学力テスト(2～5年生) ・保1 授業がわかりやすい ・保2 興味を持って学習 ・保3 家庭学習の習慣 ・保4 進んで書く、話し合う ・保5 ICTの効果的活用 ・児1 授業がわかりやすい ・児2 進んで書く、話し合う ・児3 進んで家庭学習 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・保「授業がわかりやすい」の肯定的評価は87%、「興味を持って学習」は65%で、ともに市平均と同水準である。「家庭学習の習慣」は76%であり、7月比較で2P、市平均比較で4P それぞれ上回っている。「自分から進んで書く・話す」は62%、「ICT活用」は86%で、7月よりもそれぞれ3P、1P 上回り、どちらも2年間で最高値となっている。 ・児「授業はわかりやすい」の肯定的評価は93%と依然高い水準にある。一方で「自分から進んで書く・話す」と「家庭学習の習慣」は、どちらも78%であり、7月よりも下降している。 </td> </tr> </tbody> </table>	根拠となる指標	データ分析	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査(6年生) ・標準学力テスト(2～5年生) ・保1 授業がわかりやすい ・保2 興味を持って学習 ・保3 家庭学習の習慣 ・保4 進んで書く、話し合う ・保5 ICTの効果的活用 ・児1 授業がわかりやすい ・児2 進んで書く、話し合う ・児3 進んで家庭学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・保「授業がわかりやすい」の肯定的評価は87%、「興味を持って学習」は65%で、ともに市平均と同水準である。「家庭学習の習慣」は76%であり、7月比較で2P、市平均比較で4P それぞれ上回っている。「自分から進んで書く・話す」は62%、「ICT活用」は86%で、7月よりもそれぞれ3P、1P 上回り、どちらも2年間で最高値となっている。 ・児「授業はわかりやすい」の肯定的評価は93%と依然高い水準にある。一方で「自分から進んで書く・話す」と「家庭学習の習慣」は、どちらも78%であり、7月よりも下降している。
	根拠となる指標	データ分析				
	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査(6年生) ・標準学力テスト(2～5年生) ・保1 授業がわかりやすい ・保2 興味を持って学習 ・保3 家庭学習の習慣 ・保4 進んで書く、話し合う ・保5 ICTの効果的活用 ・児1 授業がわかりやすい ・児2 進んで書く、話し合う ・児3 進んで家庭学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・保「授業がわかりやすい」の肯定的評価は87%、「興味を持って学習」は65%で、ともに市平均と同水準である。「家庭学習の習慣」は76%であり、7月比較で2P、市平均比較で4P それぞれ上回っている。「自分から進んで書く・話す」は62%、「ICT活用」は86%で、7月よりもそれぞれ3P、1P 上回り、どちらも2年間で最高値となっている。 ・児「授業はわかりやすい」の肯定的評価は93%と依然高い水準にある。一方で「自分から進んで書く・話す」と「家庭学習の習慣」は、どちらも78%であり、7月よりも下降している。 				
	成果(○)と課題(●)					
	<p>○保、児ともに「授業がわかりやすい」の肯定的評価が高い水準にあり、概ね、質の高い授業ができている。「生徒指導の機能」や「ユニバーサルデザインの視点」に関する職員研修やセルフチェックシートの活用により、わかる授業づくりが具現化できた。</p> <p>○各教科で、調べ学習や表現活動などで一人一台端末(タブレット)の効果的活用が進み、個別最適な学びがより推進できた。また、オクリンク等の活用により、協働的な学びも充実してきている。</p> <p>○自力解決場面やまとめ・振り返りの場面で、自分の意見や考えを自分の言葉で表現することに重点的に取り組み、言語活動の充実を図ることができた。また、学校図書館行事として百人一首大会を実施し、児童の興味関心を高めることができた。</p> <p>○高学年では、教科担任制(6年生3教科、5年生4教科)が定着し、質の高い授業と学びの充実につながっている。今後も学習指導・生徒指導上のメリット・デメリットを精査しながら、児童・教職員にとってより効果的な教科担任制を検討・実施していく必要がある。</p> <p>○主体的な学びに関しては、今後も校内研究において生活科や総合的な学習の時間を中核に、学習プロセスや支援の工夫を図ることができた。</p> <p>●児では、約7%の児童が「授業がわかりやすい」について否定的な評価をしている。今後さらに一人一人の実態に応じた支援の工夫・充実を図っていく必要がある。</p> <p>●保では「自分の考えを進んで書く、話し合いに参加する」は、7月よりも上昇し2年間で最高値を示しているが、まだ60%台であり、児でも70%台にとどまっている。今後、引き続き「話す・聞く・読む・書くなどの言語活動」の充実を図るとともに、学校図書館を効果的に活用した授業づくりや読書活動の一層の充実を図っていく必要がある。</p>					

重点2	■認め合う仲間:自己肯定感を持ち、多様性を認め合う児童を育成する。	
アクション	④学級経営の充実(多様性の尊重、自己肯定感の育成) ⑤道徳科を要とした道徳教育の充実 ⑥豊かな体験活動(異年齢交流、地域交流)	
	根拠となる指標	データ分析
<ul style="list-style-type: none"> ・保6 自分からあいさつ ・保7 自分の役割に責任 ・保8 だれとでも優しく関わる ・保9 子どものことで相談 ・保10 いじめや暴力のない取組 ・保11 「あったかはあと」の育成 ・児4 学校は楽しい ・児5 自分にはよいところがある ・児6 誰に対しても優しい ・児7 自分から進んで挨拶 		<ul style="list-style-type: none"> ・保では、「自分の役割に責任」「誰とでも優しく関わる」の肯定的評価は、市平均と上回る高水準である。「進んであいさつ」については、7月から3P 上昇し75%となり、市平均と同水準に到達した。学校独自項目「相談に応じてくれる」「いじめや暴力のない学校生活」「あったかはあとの育成」の肯定的評価は、全て92%以上であり、高水準を示している。 ・児では、「学校は楽しい」の肯定的評価が93%であり、2年間で最高値に達している。自己肯定感については、83%が「自分にはよいところがある」と回答しており、7月比較で3P 上昇しているが、学年間の差が大きい。(最大:1年生86%、最小:6年生68%) ・児では、「進んであいさつ」の肯定的評価は81%であるが、保では75%であり、まだ乖離がある。
	成果(○)と課題(●)	
豊かな心	<p>○児では、「学校は楽しい」の肯定的評価が93%であり、2年間で最高値に達している。多様性を尊重し、自己肯定感を育成する学級経営の充実により、学校生活満足度は、概ね高水準にある。</p> <p>○「進んであいさつ」については、保では75%であり、7月比較で3P 上昇し市平均水準に到達した。代表委員会の取り組みや教職員の継続的指導の成果が表れてきている。</p> <p>○道徳授業については、学級経営を基盤に、ローテーション授業を実施したり、授業参観等で積極的に授業公開したりするなど、指導体制や教材研究の充実により、指導の充実・強化が図れた。</p> <p>○人権教室(2年生・3年生)、学校支援実践講座(4・5年生)、情報モラル教室(5・6年生)、オレンジリボンキャンペーン(全校)等、いじめ防止や多様性の尊重に関わる指導を計画的に実施できた。</p> <p>○特別活動(学校行事)、生活科、総合学習、社会科学習等において、様々な体験活動を積極的に実施し、地域や行政の人々との多様な交流ができた。</p> <p>○異年齢交流活動を計画的に実施し、ペア学年での「なかよし交流」を推進できた。特に、1年生と6年生、はあと学級と1年生において、交流活動を積極的に推進できた。今後は、縦割り活動の導入を検討するなど、さらに推進を図っていく。</p> <p>○保では、学校独自3項目「相談」「いじめ・暴力」「あったかはあと」については、無回答(=わからない)の割合が、7月比較で全体的に減少している。特に、「相談」と「いじめ・暴力」でそれぞれ4P 減少している。授業参観、お便り(学校・学年・学級、保健、給食等)、HP 等により、学校の取組が保護者に広く伝わってきたと言える。</p> <p>●児では、「学校は楽しい」について否定的に回答している児童が7%いる。また自己肯定感については、学年差が大きい。今後、生徒指導の機能を生かした学級経営や異年齢交流をさらに工夫・充実していく必要がある。</p> <p>●児では、「進んであいさつ」の肯定的評価は81%であるが、保護者アンケートでは、75%である。児童の自己評価ほどは、できていない実態も伺え、さらに意識化と実践化を図る必要がある。</p> <p>●不登校児童(30日以上欠席)が昨年度より増加している。一人一人の状況に寄り添った支援の充実をより一層図っていく。</p>	

重点3	■健康・安全のセルフマネジメント:健康安全に関するセルフマネジメント力を育成する。	
アクション	⑦自ら運動に親しむ資質・能力の育成と体力向上(教科体育の充実、運動の日常化) ⑧健康安全教育の充実(生活習慣、食育、危険回避能力)	
	根拠となる指標	データ分析
<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テスト(1～6年生) ・保健室利用状況 ・保12 進んで体を動かす ・保13 安全に気を付けて生活 ・保14 基本的な生活習慣 ・児8 進んで体を動かす ・児9 早寝・早起き 		<ul style="list-style-type: none"> ・保では、「安全に気を付けて生活」の肯定的評価は92%、「基本的な生活習慣」は87%であり、市平均を3～4P 上回っている。また、どちらも過去3年間で最高値となっている。 ・保では、「進んで体を動かす」の肯定的評価が75%であり、7月比較で1P 上昇し市平均水準に到達している。しかし、児では、「進んで体を動かす」の肯定的評価71%と低く、7月比較でも6P 下降している。 ・児では、「早寝・早起き」の肯定的評価が、69%であり、7月比較で14P 下降している。昨年度12月比較では、3P 上昇している。
成果(○)と課題(●)		
健康かな体	<p>○教科体育では、年間指導計画の見直しを行い、単元のまとめどりをしたことで、単元の運動に集中して取り組めるようになり、自分のめあてを持ち、達成感を味わいながら楽しく運動できた。</p> <p>○業間休みや昼休みなど進んで外遊びをしている児童が多い。</p> <p>○体育委員会を中心に、体力向上大作戦、二重跳びリレーなどの取り組みを通して運動することの楽しさを実感できた。</p> <p>○食育では、行事食(七夕、お彼岸、クリスマス等)、おはなし給食、交流給食、食に関する授業(お箸名人、のり漉き体験、わかめ授業、おなか元気教室、きき出汁等)、給食時間の校内放送、などを計画的に実施し、食に関する意識を高め、食育を推進できた。</p> <p>○給食試食会(1年・3年・4年、学校運営協議会)を計画的に実施し、家庭への啓発が推進できた。来年度以降も1年生保護者を対象に計画的に実施していく。今後、学校給食運営協議会を開催予定。</p> <p>○1年生を対象に養護教諭によるプライベートゾーン、パーソナルスペースについての指導できた。また、2年生を対象に学校保健講演会を実施し「命と体」について学習するとともに、保護者にも参観していただくことで啓発を図った。来年度も継続的に実施できるよう、年間計画に位置付け実施していく。</p> <p>○生活習慣アンケート(児童、保護者)を実施し(11月)、児童が自ら生活習慣の見直しをする契機となるとともに、保護者への啓発を図ることができた。</p> <p>○避難訓練、着衣水泳などを計画的に実施し、危機回避能力(意識とスキル)を高めることができた。</p> <p>●体力向上にはまだ課題がある。業間、昼休みには、外遊びする児童の姿も多く、保護者、児童ともに、外遊びなど進んで体を動かすについての肯定的評価は少しずつ上昇しているが、引き続き、放課後の遊び方や休日の過ごし方も含めて、運動に対する意識(運動が好き、運動することは楽しい、運動をしたい等)を高めていく必要がある。</p> <p>●基本的な生活習慣(早寝・早起き、朝ごはん)については、昨年度比較で児童の自己評価が大きく向上したが、今後も自らの生活態度を改善できるような手立てを講じていく必要がある。</p> <p>●ヘルシースクール委員会の運営方法について検討し、保健指導、体力向上、食育について、学校保健委員会の開催を検討するなど、一層の指導の充実を図っていく。</p>	

重点4	■寄り添う支援:子どもや保護者の思いに寄り添いながら、保護者・地域との連携を図る。	
アクション	⑨子ども支援体制の充実・強化(子ども支援部会、ケース会議、児童アンケートなど) ⑩保護者・地域と連携した教育活動の展開(生活科、総合的な学習の時間、学校行事など) ⑪適時適切な情報発信と学校公開(各種お便り、HP、授業参観、懇談会など) ⑫学校運営協議会での教育ビジョンの共有、学校評価による学校経営改善の推進	
	根拠となる指標 ・保15 学校経営方針の周知・啓発 ・保16 保護者・地域との連携 ・保17 保護者の思いや願いに対応 ・保18 特色ある取組 ・保19 一人一人に適切な指導支援 ・保20 安全な生活指導 ・保21 幼・小・中の連携	データ分析 ・保では、共通5項目のすべてにおいて、肯定的評価が市平均を2～7P 上回っており高い水準にある。特に「保護者の思いや願いに対応」は94%であり、市平均を6P 上回っている。 ・保では、「保護者・地域との連携」、「保護者の思いや願いに対応」、「一人一人に適切な指導支援」の3項目については、過去3年間で最高値を示している。 ・共通5項目において、無回答(=わからない)の割合が、10～14%ある。全体的に1～3P 減少しているものの、例年と変わらず依然高い水準にある。 ・中学校ブロック幼・小・中の連携については、肯定的評価が80%であり、3年間で最高値を示している。
成果(○)と課題(●)		
信頼される学校づくり	<p>○職員会議や子ども支援部会、ケース会議などで、支援を要する児童や家庭に係る情報共有(子ども支援部会だより、小松 SC 等)と対応について、学校体制を整備しながら支援の充実を図った。</p> <p>○「不登校児童支援記録シート」を作成し、教職員で不登校児童の状況を共有し支援の充実を図った</p> <p>○教育相談週間を計画的に実施するとともに、児童の SOS を取りこぼすことがないように、新たに「相談箱」の設置・活用を図った。(相談件数9月～2月:11件)</p> <p>○地域連携主任のコーディネートのもと、学校行事(プレスタ等)、生活科、総合学習、社会科学習等において、様々な体験活動を積極的に実施し、保護者、地域、行政、民間の人々との多様な交流・連携ができた。</p> <p>○幼保小との連携として、学校参観や生活科の秋祭りなどで交流することができた。</p> <p>○OSD や OST 等において、「参観アンケート」を実施、広く保護者の声を聴く機会を設け、改善等に生かすことができた。</p> <p>○学校運営協議会(5回)を年間開催し、学校経営方針の承認をいただくとともに授業参観を実施した。情報共有や経営課題について検討・協議ができた。また、「学校運営協議会だより」を HP にアップし、活動内容を広く周知できた。</p> <p>○はあと学級では、「居住地交流」や「交流および共同学習」を児童・保護者のニーズに応じて適切に実施できた。</p> <p>○個別の教育支援計画(スマイルプラン)、個別の指導計画を適時適切に作成並びに引継ぎを行い、当該児童・保護者のニーズに応じた支援の充実が図れた。</p> <p>○令和6年度特別支援学級(自閉症・情緒小障がい)設置に向け、入級希望の相談体制を整え、保護者への周知を図ることができた。</p> <p>○学校 HP「今日の妙典小」「おいしい給食」をほぼ毎日更新し、児童の学習や生活の様子をお知らせするできた。</p> <p>●令和6年度特別支援学級(自閉症・情緒小障がい)設置に向け、特別支援教育コーディネーターを中心に、子ども支援部会(校内委員会)の機能強化を図る。 ※子ども支援部会=生徒指導+不登校児童支援+校内委員会(特別支援教育)</p> <p>●無回答(=わからない)の割合が全体的には減少してはいるが、まだ10～14%あり依然として高い。HP の充実、学校だより等の内容改善など、情報提供の内容と方法を改善してきたが、学校の取組みが十分に保護者に伝わっていない状況も伺える。</p>	